

防 災 係

1 災害対策

(1) 訓練

ア 福生市総合防災訓練

平成 25 年 10 月 26 日(土) に実施予定であったが、台風 27 号接近のため中止

イ 起震車体験訓練

目 的 人工地震の体験を通して、防災行動力の向上及び防災意識の高揚を図ることを目的とし、自主防災組織、学校、事業所等において福生消防署の協力により初期消火訓練、応急救護訓練等と併せて実施した。

運用回数 20 回 (平日 12 回 土・日曜日 8 回)

運用先 自主防災組織 8 回 学校等 12 回

体験者数 2,164 人

(2) 災害対策事業

ア 防災啓発活動

(ア) 自主防災リーダー講習会及び救命講習会

講習日 平成 25 年 6 月 29 日(土) 午前 9 時～午後 4 時

場 所 福生市役所

受講者数 53 人

(イ) ふっさ防災展

開催日 平成 26 年 1 月 29 日(水)・30 日(木)・31 日(金)

場 所 福生市プチギャラリー

内 容 「福生市の防災」 福生市地域防災計画、新たに締結した協定等の紹介

「備蓄品紹介」 福東トモダチ公園、帰宅困難者対策
ご家庭・職場向けの備蓄品、市備蓄品、缶入りパンの試食

「自助・共助の推進」 自主防災組織、福生市消防団団員募集

「消防署コーナー」 救助資機材紹介、家具転倒防止器具、住宅用火災警報器、AED 展示、消防少年団募集、子ども用防火服試着コーナー等

※コーナーごとに、パネル・実物の展示及びパンフレットの配布を実施。また、ビデオ上映も行った。入場者には消防署が用意した消しゴム、ペーパークラフト、トイレットペーパー等の様々な啓発物品を配布した。

見学者数 867 人

(ウ) 自主防災組織による災害体験学習

月日	自主防災組織名	学習場所	参加者数(人)
6.9	本町第七地区	横浜市民防災センター	38
6.15	南田園二丁目地区	山梨県立防災センター	33
6.23	武蔵野地区	東京臨海広域防災公園	21

6.30	福生団地地区	横浜市民防災センター	42
9.8	熊川牛浜地区	横浜市民防災センター	115
9.8	本町第三地区	立川防災館	14
9.14	富士見台地区	山梨県立防災安全センター	28
9.22	本町第二地区	立川防災館	30
10.6	本町第六地区	四谷消防博物館	33
10.20	志茂第一地区	三菱みなとみらい技術館	33
10.27	志茂第二地区	東京臨海広域防災公園	33
11.9	南地区	さいたま市防災センター	27
11.9	南田園三丁目地区	山梨県立防災安全センター	45
11.23	本町第八第一地区	埼玉県防災学習センター	35
11.24	牛浜第二地区	さいたま市防災センター	22
11.30	本町第八第二地区	東京臨海広域防災公園	28
12.7	永田地区	東京臨海広域防災公園	24
H26.1.18	原ヶ谷戸地区	神奈川県総合防災センター	32
1.26	鍋ヶ谷戸第二地区	横浜市民防災センター	51
2.2	玉川台地区	立川防災館	30
2.9	鍋ヶ谷戸第一地区	立川防災館	24
2.11	武蔵野台一丁目地区	横浜市民防災センター	30
2.23	加美平団地地区	立川防災館	30
3.1	長沢地区	立川防災館	23
3.2	本町中央地区	東京臨海広域防災公園	32
3.16	福栄地区	立川防災館	28
3.23	本町第一地区	立川防災館	23
合 計			27 団体 904

(エ) 自主防災訓練の実施

自主防災組織名	参加者数 (人)	自主防災組織名	参加者数 (人)
福生熊川住宅地区	221	志茂第一地区	121
南地区	180	志茂第二地区	167
内出地区	170	本町第一地区	45
武蔵野地区	93	本町第二地区	10
福東地区	357	本町第三地区	8
鍋ヶ谷戸第一地区	336	本町中央地区	14
鍋ヶ谷戸第二地区	40	本町第六地区	134
玉川台地区	85	本町第七地区	140
富士見台地区	185	本町第八第一地区	75
福栄地区	57	本町第八第二地区	444
熊川牛浜地区	150	武蔵野台一丁目地区	14
南田園一丁目地区	四地区合同 水防災訓練 ほか 285	加美平団地地区	110
福生団地地区		永田地区	60
南田園二丁目地区		長沢地区	138
南田園三丁目地区		加美第一地区	二地区合同 237
牛浜第一地区	104	加美第二地区	
牛浜第二地区	67	合 計 (34 地区)	4,542
原ヶ谷戸地区	495		

イ 各自主防災倉庫主な配備品

品名	各数量	品名	各数量
毛布	15 枚	投光機	1 台
ポリタンク	1 個	三脚（投光機用）	1 台
応急救護セット	1 セット	発電機	1 台
骨折セット	1 セット	ガソリン携行缶	1 個
救急箱	1 セット	ロープ（15m）	1 巻
担架	4 台	三角バケツ	10 個
テント	1 張	のこぎり	1 本
ヘルメット	45 個	オイルパン	2 個
ハンドマイク	2 台	メガホン （トランジスター型 1 個）	5 個
移動式炊飯器	1 台	のぼり旗	2 本
防水シート	10 枚	リヤカー （折り畳み式 2 台）	3 台
スコップ	5 本	バール	1 本
コードリール	1 巻	ラジオ付ライト	3 個
強力ライト	3 個	チェンソー	1 台
ハンマー	3 本	災害救助工具セット	2 セット
つるはし	1 本	軽可搬式消防ポンプ ※	1 台
一輪車	1 台		

※ 内出地区、武蔵野地区、福東地区、熊川牛浜地区、牛浜第一地区、
原ヶ谷戸地区、志茂第二地区、本町第七地区、本町第八第一地区、
本町第八第二地区、永田地区、長沢地区、加美第二地区 計 13 地区

ウ 市内備蓄倉庫主な応急対策資器材・物資備蓄品

品名	各数量	品名	各数量	品名	各数量
乾パン	8,472 食	哺乳ビン	570 本	投光器及び三脚	26 台
サバイバルフーズ	37,320 食	乳首	100 個	発電機	21 台
アルファ米	21,650 食	毛布	6,675 枚	ガソリン携行缶	22 台
3日間食料セット	7,155 食	簡易トイレ等	191 台	ハンドル充電式ラジオ	52 個
保存用乾燥おかゆ	6,950 食	トイレットペーパー	1,800 巻	安全キャンドル	60 個
クラッカー	5,530 食	生理用品	3,780 個	補給用ろうペレット	60 個
災害備蓄用パン	5,520 食	コンパクト肌着	1,600 枚	強力ライト	70 個
非常災害用ドロップス	250 缶	粉ミルク	600 缶	テント	25 張
レトルト白ご飯	270 食	立て看板	50 枚	担架	92 台
はんぶん米	850 食	脱脂綿	200 包	紙オムツ大人用	300 個
缶入りミニクラッカー	264 食	折りたたみ式寝具	66 台	紙オムツ幼児用	2,820 個
ファイバービスケット	264 食	防水シート	857 枚	マスク	5,520 枚
応急医療セット	5 セット	梯子	27 台	ゴザ	600 枚
スプーン	1,000 本	掛矢	36 本	鋼板	35 枚
おぼん	500 個	ジョレン	144 本	鋼板用支柱	33 本
おわん	3,000 個	コードリール	10 台	土嚢用止め杭	1,200 本
コップ	3,000 個	防水ライト	50 個	土嚢袋	1,560 枚
包帯	350 巻	ハンマー	9 本	雨具	20 セット
カセットコンロ	3 台	つるはし	100 本	鉄火鉢	26 台

災害用簡易ベッド	16 台	三角バケツ	384 個	固形燃料	98 個
メガホン	100 個	とび口	15 本	ポリタンク	20 個
ハンドマイク	10 台	斧	10 本	折畳式ウォータータンク	40 個
チェンソー	10 台	オイルパン(樹脂製)	12 台	オイルパン(鉄製)	11 台
平バール	5 本	パイル	300 本	ウォーターパッカー	2 台
折り込み鋸	10 本	木杭	19 本	スコップ	136 本

エ 各避難所倉庫主な配備品

品名	各数量	品名	各数量
乾パン	600 食	簡易更衣室用テント	1 台
簡易トイレ	2 台	炊き出し釜	1 台
防水シート(ブルーシート)	12 枚	鉄火鉢	2 台
投光器及び三脚	1 台	固形燃料	8 個
発電機	1 台	ポリタンク	2 個
ガソリン携行缶	1 個	ハンドル充電式ラジオ	1 個
テント	1 張	安全キャンドル	3 個
担架	2 台	補給用ろうペレット	3 個
マスク	480 枚	メガホン	5 個
セルフケアセット	2 セット	のぼり旗(避難所)	1 枚

オ 初期消火体制整備

街頭設置消火器及び格納箱の新旧取替えを実施した。

2 消防活動

(1) 常備消防(福生消防署)

福生市、羽村市、瑞穂町の2市1町を管轄区域として、本署と3出張所に総員213名の署員と消防ポンプ車5台、非常用ポンプ車2台、特殊化学車1台、化学車1台、はしご車1台、救急車4台、非常用救急車1台、指揮隊車1台、査察広報車4台及び人員輸送車1台からなる陣容で消防活動、予防行政の執行等に従事している。

出場状況(管轄区域)

(単位:件)

火災	非火災	水災	救急	救助	危険排除	緊急確認	合計	前年度合計
63	13	11	9,305	301	92	81	9,866	9,971

(2) 非常備消防(福生市消防団)

市内にある5個分団からなる消防団組織(団員186人。消防ポンプ車5台及び指揮車1台を保有)により、消防活動を実施している。

ア 消防団組織

団 長 — 副団長 (1 人) (4 人)	—	第一分団長	—	副分団長	—	部 長	—	班 長	—	団 員	
		(1 人)		(2 人)		(3 人)		(9 人)		(20 人)	
		—	第二分団長	—	副分団長	—	部 長	—	班 長	—	団 員
		(1 人)		(2 人)		(3 人)		(9 人)		(20 人)	
		—	第三分団長	—	副分団長	—	部 長	—	班 長	—	団 員
	(1 人)		(2 人)		(3 人)		(9 人)		(20 人)		
	—	第四分団長	—	副分団長	—	部 長	—	班 長	—	団 員	
	(1 人)		(2 人)		(3 人)		(9 人)		(20 人)		
本部付団員 (6 人)	—	第五分団長	—	副分団長	—	部 長	—	班 長	—	団 員	
	(1 人)		(2 人)		(3 人)		(9 人)		(20 人)		

イ 配置車両

分団名	車両ナンバー	車両の種類	車両購入年月日
団本部	八王子 800 さ6574	普通自動車「ワゴンタイプ」(日産)	平成 15 年 9 月
第一分団	八王子 830 さ2301	普通消防ポンプ自動車(いすゞ)	平成 26 年 1 月
第二分団	八王子 830 さ2302	普通消防ポンプ自動車(いすゞ)	平成 25 年 1 月
第三分団	八王子 830 さ2303	普通消防ポンプ自動車(三菱)	平成 11 年11月
第四分団	八王子 830 さ2304	普通消防ポンプ自動車(いすゞ)	平成 24 年 2 月
第五分団	八王子 830 さ2305	普通消防ポンプ自動車(三菱)	平成 12 年12月

ウ 年齢別団員数

(単位：人)

年齢 団員数	18～20歳	21～25歳	26～30歳	31～35歳	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51歳以上
186	5	29	51	38	28	29	5	1

エ 在職年数別団員数

在職年数 団員数	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上
186	61	40	37	32	14	1	1

オ 退団・入団員数

(単位：人)

区分	平成25年4月1日現在	退団者	入団者	階級異動	平成26年4月1日現在
本部	5				5
本部付団員	6				6
第一分団	35	3	2		34
第二分団	35	4	4		35
第三分団	35	6	6		35
第四分団	35	8	8		35
第五分団	35	3	3		35
合計	186	24	23		185

カ 消防団員火災出動状況

火災発生件数(件)	出動回数(件)	延べ出動団員数(人)	平均出動団員数(人)
22	18	1,445	80.3

※出動回数は管外出動2件を含む。

キ 消防団出動状況(風水害等)

延べ出動団員数(人)	出動回数(回)
550	6

ク 消防団警戒等特別出動状況

警戒名	延べ出動団員数(人)	出動回数(回)
祭礼警戒	125	2
七夕警戒	366	4
歳末警戒	282	5
その他の警戒	125	7
合計	898	18
前年度合計	971	16

ケ 消防団各種訓練（消防）

訓練名	延べ出動団員数（人）	出動回数（回）
火災防御訓練	696	14
ポンプ操法訓練	5,191	76
機関訓練	1,492	60
規律・礼式訓練	189	6
教育訓練	639	40
住民指導	191	11
合計	8,398	207
前年度合計	7,617	160

コ 消防団各種訓練（災害）

訓練名	延べ出動団員数（人）	出動回数（回）
教育訓練	0	0
住民指導	0	0
合計	0	0
前年度合計	154	1

サ ポンプ操法審査会（第 61 回）

審査会は、消防ポンプ操法の基本を身につけ、指揮者と団員との連携を訓練し、もって団員の士気向上を図り、火災防御活動の迅速かつ確実な実施及び火災による生命・財産の損害の防止を目的とし、ホースカーによるホース延長操法及び手びろめによるホース延長操法を隔年で実施していたが、平成 23 年度より現在まで、各分団の消防ポンプ自動車の更新事業を実施しており、車両の操作方法が異なるホースカーによるホース延長操法は一時中止としている。

平成 25 年度	手びろめによるホース延長操法		
	優勝	第 2 位	第 3 位
総合成績	第三分団	第四分団	第五分団
チーム成績	第三分団 A	第四分団 B	第三分団 B

前 年 度	手びろめによるホース延長操法		
	優勝	第 2 位	第 3 位
総合成績	第四分団	第三分団	第二分団
チーム成績	第四分団 B	第二分団 A	第三分団 B

(3) 火災の状況

ア 月別火災発生件数

区分 月	建 物			車両 (件)	その他 (件)	合計 (件)	※ 焼失面積 (㎡)	非火災 (件)	消 防 団 出動回数 (回)
	全焼 (件)	半焼※ (件)	ぼや (件)						
4					1	1			
5					1	1			
6					2	2		2	2
7			1			1			1
8			2	1		3			1
9	1				3	4	230		1
10		1	3			4	45		3
11					1	1	1		
12					1	1		3	3
26 年 1					1	1		3	3
2	1		2			3	46		2
3								1	2

合 計	2	1	8	1	10	22	322 (50)	9	18
前年度 合 計	0	4	10	2	19	35	40 (12)	24	24

※半焼は、部分焼を含む。

※焼失面積は焼失床面積、() 内は天井、壁等の焼失表面積

イ 原因別火災件数

(単位：件)

原 因		放 火 (疑い含む。)	たばこ	ストーブ	ガスコンロ等	火遊び	その他	合計
件 数	平成 25 年度	11	3	0	4	0	4	22
	前 年 度	17	5	1	1	1	10	35

(4) 消防水利施設

ア 水 利

(単位：基、箇所)

消 火 栓		合 計	防 火 水 槽			貯 水 槽		合 計	プ ール
150 mm 未 満	150 mm 以 上		20 m ³ 未 満	20 m ³ 以上 40 m ³ 未 満	40 m ³ 以上 60 m ³ 未 満	60 m ³ 以上 100 m ³ 未 満	100 m ³ 以上		
464	157	621	33 (0)	5 (0)	99 (89)	18 (18)	22 (22)	177 (129)	17

() は、耐震性防火水槽・貯水槽で内数

イ 消火栓新設箇所

(単位：mm)

番号	設 置 箇 所	口 径	備 考
	0 箇 所		

ウ 消火栓移設箇所

(単位：mm)

番号	設 置 箇 所	新 口 径	旧 口 径	備 考
1	大字熊川 773 番地先	φ 150×φ 75	φ 150×φ 75	地下式単口→地下式単口
2	大字熊川 1000 番地先	φ 250×φ 75	φ 250×φ 75	地下式単口→地下式単口
3	大字熊川 1011 番地先	φ 250×φ 75	φ 250×φ 75	地下式単口→地下式単口
4	大字熊川 1023 番地先	φ 100×φ 75	φ 100×φ 75	地下式双口→地下式双口
5	大字福生 502 番地先	φ 100×φ 75	φ 100×φ 75	地下式単口→地下式単口
6	大字福生 674 番地先	φ 300×φ 75	φ 300×φ 75	地下式双口→地下式単口
7	加美平二丁目 1 番地先	φ 100×φ 75	φ 100×φ 75	地下式単口→地下式単口
8	志茂 129 番地先	φ 100×φ 75	φ 100×φ 75	地下式単口→地下式単口
9	東町 6 番地先	φ 200×φ 75	φ 200×φ 75	地下式単口→地下式単口
10	東町 9 番地先	φ 100×φ 75	φ 100×φ 75	地下式単口→地下式単口
合計	10 箇 所			

エ 消火栓補修箇所

(単位：mm)

番号	設 置 箇 所	口 径	備 考
1	大字熊川 358 番地先	φ 100×φ 75	地下式単口
2	大字熊川 381 番地先	φ 100×φ 75	地下式単口
3	大字熊川 452 番地先	φ 100×φ 75	地下式単口
4	大字熊川 465 番地先	φ 100×φ 75	地下式単口
5	加美平一丁目 14 番地先	φ 100×φ 75	地下式単口
6	加美平一丁目 15 番地先	φ 100×φ 75	地下式単口
7	加美平一丁目 17 番地先	φ 100×φ 75	地下式単口
合計	7 箇 所		